

# 岡山県青年会会報

発行者 岡山県青年会  
編集 公益財団法人備中館

岡山県青年会学生幹事長挨拶

学生幹事長 安達大輔



現在、岡山県の他にも様々な自治体が

東京都に学生寮を設置しております。しかし、東京都に4つも県人寮を持つているのは唯一、岡山県だけです。これは岡山県民が昔から学生の教育に力を入れてきたことの表れであろうと思われまます。確かに、地元岡山を離れ、東京の地で学ぶ私たちにとって寮という存在は無くしてはならないものとなっております。

私は高校を卒業し、上京して大学に通うために鶴山館に入寮させていただきました。最初のころは地元を離れた地であり右も左もわからない状態でありましたが、先輩方や同期と共に生活する中で、多くの事を学ぶことができ、充実した大學生を送ることが出来ています。

私が思うに、寮というものは二つの

側面を有しております。一つ目は経済的側面です。東京という地は地方と比べて地価や物価が高く、そういった経済的負担が地方から出て東京で学ぼうとする学生に対して大きな障壁になっていると考えられます。そこで安価で生活できる場を提供し、東京での学びを奨励しようという役割が寮にはあると考えられます。居住費や食費にかかる負担を軽減することによって、学業や課外活動にお金を割くことができます。

二つ目は教育的側面です。上下関係や基本的なルールを守ることは当たり前ですが、これほどの人数の個人が一つのコミュニティのもとで共に長い時間を共に過ごす中では、お互いの主義主張がぶつかり合うこともあると思います。個人の主張を持つことも大切である一方で、集団に属しているということも忘れてはなりません。そこでのバランス感覚というものも身に付けることが出来るのは寮ならではの成長の機会であると考えます。

寮ではこのように勉学の他にも人間的に成長し、社会に出てから必要な力を身に付けることができると思います。しかし、年々、岡山から上京し寮で生活を

ようとする人は減少傾向にあります。私は岡山県青年会学生幹事長として学生寮という恵まれた環境で過ごす濃厚な4年間の魅力を伝え、青年会と言うコミュニティの輪を広げることに尽力したいと考えております。

また、このような機会を与えて頂いた関係者皆様への感謝を忘れることなく、四寮の交流を深め、学生がお互いに切磋琢磨することで成長することが出来るような環境作りに努め、いつの日か恩返しが出来るように尽力させていただきますので、今後ともご指導、ご協力のほどよろしくお願い致します。

## 新入生と卒業生の状況

平成二十五年三月には、思い出の詰まった学生寮から21人の学生が巣立って行きました。一人ひとりが、学生寮で過ごし学んだことを活かして、更なる成長を遂げることを祈っています。

四月には、新たな学生が岡山から加わり、平成二十五年十月現在、四つの学生寮で生活している学生は100人となっております。

学生寮での生活がそれぞれの人生において、素晴らしい時間となるよう健康に留意して過ごして欲しいと願っています。

### ■平成24年度 卒業生の状況■

	首都圏	岡山県	その他の地域	計
岡山県育英会東京寮	4人	4人	1人	9人
鶴山館	3人	1人	2人	6人
精義塾	3人	—	—	3人
備中館	2人	—	1人	3人
合計	12人	5人	4人	21人

### ■平成25年度 在寮生の状況（平成25年10月1日現在）■

	1年	2年	3年	4年	大学院	計
岡山県育英会東京寮	8人	7人	10人	8人	7人	40人
鶴山館	5人	10人	6人	7人	—	28人
精義塾	2人	5人	4人	6人	—	17人
備中館	3人	3人	4人	5人	—	15人
合計	18人	25人	24人	26人	7人	100人



平成24年度 岡山県青年会総会

平成24年11月28日(水)の夕刻、都道府県会館(千代田区平河町)において、各界で御活躍される郷土岡山県出身の諸先輩方にも多数お集まりいただき、岡山県青年会総会を開催しました。

総会は宮原耕治会長(日本郵船(株)代表取締役会長)の挨拶で始まり、植田大貴学生幹事長の挨拶、出席者の紹介、総会議事(事業報告、会計報告など)を行い、全ての議事が承認されました。

引き続き行われた講演会では、「俳句の楽しさ」という題で、佐々木建成氏(天穹俳句会主宰)から、御講演をいただきました。

俳句は、五・七・五から成る世界で最も短い文芸、58歳から俳句を始め、3年前から、天穹俳句会の主宰となり、会の運営に携わっている。句を詠むにあたっては、新しい発想を心掛け、詩情豊かに、より感動の大きい句が生まれることを目指している。勉強にしろ、仕事にしろ、それだけに集中するのではなく、いろんな趣味を持ち、できれば、文芸的なことにも親しみ、心豊かな人生を送って欲しいとの呼びかけを、集まった学生は皆真剣に聞いていました。講演後は、学生によるお礼の挨拶と花束贈呈を行いました。その後、行われた懇親会では、三宅文

男副会長(元清水建設(株)代表取締役副社長)の挨拶の後、隅田憲平副会長(NPO法人東京シティガイドクラブ理事)の発声で乾杯を行い、出席いただいた国会議員の先生方から激励していただいたり、学生から各寮の近況報告を行うなど、食事を挟みながら、先輩方や同輩達と歓談の輪を広げ、親睦や交流を深めました。最後に鳥越興理事(元ペンタックス(株)取締役)による中締めをもって、盛況のうちに総会は終了しました。

平成25年度も多くの方々にご参加いただけるよう、12月2日の総会開催に向けて、学生幹事一同尽力したいと思います。今後とも、一層の青年会発展のため、皆様からの御指導と御支援をお願いいたします。

平成25年度  
岡山県青年会総会

○日時：平成25年12月2日(月)  
18:00～20:20

○場所：都道府県会館4階  
402会議室(総会・講演会)  
410会議室(懇親会)  
東京都千代田区平河町2-6-3



佐々木建成氏による講演会



宮原会長挨拶



懇親会の様子



総会の様子



## 近況報告 岡山県育英会東京寮

こんにちは、東京寮です。気がついたら僕の寮生活は二年目になり、先輩になっ  
ていました。昨年度はまず寮に慣れようとい  
っぱいいっぱいでしたが、先輩が入って  
くると一つ一つの行事に対し伝統というこ  
とで次の代に継いでいってほしいと感じ  
るようになりました。

その伝統行事の一つということで先日山  
手線一周がありました。通常一時間あれ  
ば電車で一周出来る山手線を、わざわざ  
自分の足で一日近くかけて走ります。し  
かも学ランを着て。毎回説明するたびに  
一年生のみんなや寮外の人たちから「な  
んでそんなことをするのか?」と言われ  
ます。しかしこれにはやった人にしかわ  
からない感動があります。昨年度の僕も  
えらい思いをしましたが、今となっては  
楽しい思い出です。今年は暑かった  
こともあって熱中症になりかける人が出  
るなどのハプニングがありました。完  
走して寮生活や寮の仲間との絆を感じて  
くれたのではないかと思います。11月に  
はもう一つの伝統行事、寮祭もあります。  
最近の自分を振り返ると、寮で飲み会に  
誘われれば「よろこんで!」と付いてい

き、寮が代々幹旋するバイトを掛け持ち  
している僕はどつぷりと寮に浸かってい  
る生活を送っているようです。同郷の人  
たちと騒ぎながら楽しく過ごす寮生活、  
大事にしていきたいと思えます。

2年生 森本将弘



## 近況報告 鶴山館

はじめまして。横山祐磨と申します。  
今年度鶴山館に入寮し、東京大学に通っ  
ています。

入寮して驚いたことは、何といても設備が充実していることでした。一人  
に対して一部屋が与えられていること。  
コピー機を自由に使えること。ネット回  
線を利用できること。大学生にとって、  
この上なく恵まれた環境が、ここ鶴山館  
にはありました。

鶴山館には、共有のスペースであるロ  
ビーがあり、寮生の交流の場となってい  
ます。はるばる上京し、一人暮らしだと  
寂しさを感じることもあると思います。  
しかし、ここ鶴山館では、ロビーに行け  
ば、寂しさを感じることなく、リラック  
スして時間を過ごすことができます。

鶴山館では、数多くの行事があります。  
その中には、相撲観戦など、なかなか体  
験できない行事もあり、貴重な時間を過  
ごすことができます。寮には、フットサ  
ルコートがあり、フットサル大会が開か  
れることもあります。フットサルの経験  
がほとんどなかった僕も、ぞんぶんに楽  
しむことができました。

僕はまだ、入寮して四か月です。これ  
からさらに、鶴山館の良さを実感できる  
ことを期待しています。

1年生 横山祐磨





## 近況報告 精義塾

どうも、最近、公益財団法人になりました。精義塾でございます。

近況報告といたしまして、我々は相変わらず行事や地域交流を主に行っております。

現在、わが精義塾は17人態勢で稼働しており、先輩後輩礼節をきちんとわきまえた上で、仲良くゲーム、スポーツなどを楽しんでいます。

寮の行事では、先日「夏の精義塾 仮装旅行」に行ってきました。目的地は、奥多摩の氷川キャンプ場。そこにたどり着くまでに降りる駅は、若者の街「池袋」、大人の街「新宿」、ヲタクの街「秋葉原」。悲鳴、驚き、笑いといろいろな洗礼を浴びながら街を闊歩しました。私たちだけの思い出でなく何百人の人たちの思い出にもなり、我々も本望であります。また、他寮ともフットサル大会のち交流会などを行い、みんな岡山出身同士で仲良く和気あいあいと時間を過ごすことができました。諸事情によりこの寮が優勝したかはあやふやになってしまいま

したが実に有意義な一日となりました。大まかではありますが、精義塾はこのように学生という立場の中で、一生懸命青春を謳歌しています。短いですが、これで精義塾の近況報告とさせていただきます。

2年生 大森圭祐



## 近況報告 備中館

備中館に在籍している2年の春木純司と申します。

私が入寮してから早一年が経ちました。そしてこの春、2人の新入生が備中館に入ってきました。彼らも様々な行事や寮生活を通して備中館の空気に馴染んできております。

また、寮生は自治寮として寮の管理・運営に携わるので、館生間の意思疎通が非常に重要となります。そのために花見やマラソン大会などの恒例行事の一つ一つが大切なものであると、2年生となって改めて肌で感じます。

現在、備中館には寮生が14名在籍しており、様々な個性を持った人が集まっており、日々刺激を受け生活しています。私がこれまでに接したことはないタイプのひととの会話や議論など非常に新鮮で、入寮してから視野が広がったように感じます。そして各々が役割を全うし、ほどよい緊張感を与えてくれています。

様々な人が集まるこの備中館においてそれぞれの個性を生かし、寮の運営に

生かしていくことは、社会に出てからも大きな財産になっていくものだと思います。

2年生 春木純司



## 育英会東京寮の先輩から

私が花の都・東京で暮らした五年間を振り返る時、東京寮の事は切っても切り離せない。私達にとって寮は単なる住処ではなかった。憧れの街で過ごす青春の本拠地として「第二の故郷」と呼べるまでに心の拠り所だった。一つ屋根の下、同じ釜の飯を食い同じ風呂釜に入った。金が無い時は一本のビールを半分ずつ呑み、一箱の煙草を一緒に吸い、一束の Pasta を分け合って食べた。寮で出会った仲間是一生モノの連れであり、そこで築いた思い出の数々はこれから何年経っても決して色褪せはしないだろう。幸せな時も苦しい時も、仲間達と笑い合い支え合った。朝が来るまで酒を囲んで語り合い、はしゃいだあの日々を忘れはしないだろう。いつだってそこには寮の仲間がいた。それは卒業した今も変わっていないし、これからも変わる事はないだろう。私達OBは東京寮で幸せな日々を過ごせた事に感謝している。私も卒業する時「この寮で暮らせて本当に良かった」と心から思った。だからこそ、どうか今後一人でも多くの寮生がそう思うよう、そ

して「東京寮」という第二の故郷を持つ同志が増えるよう、そう願っている。共に一つの時代を築き、共に一つの時代を駆け抜けた、最高の仲間達と共に。

東京寮の今後益々の発展と在寮生の青春が素晴らしいものになる事を祈って。

渡邊宏敏（平成24年度卒業）

## 鶴山館の先輩から

岡山県出身で有名な俳優の八名信夫さんは、芝居に岡山弁を出すまいと意識するあまり、演技に味がなくなってしまうのだという。八名さんは開き直って岡山弁で役をやると伸び伸び演じることができるようになり、そんな力を持つ方言を温かな「おふくろの味」と『私の好きなお国ことば』（小学館）で書いている。そんな方言の力を感じたことがあるのは決して私だけではあるまい。私は今年四月に全国転勤のある放送局に記者として就職し、香川県で働き始めた。一年目記者の仕事は警察取材の「サツ回り」だ。毎日毎日何人もの警察官と話をすることになる。「中村くん、なんかできよんなー?」「なんちゃでつきよらん

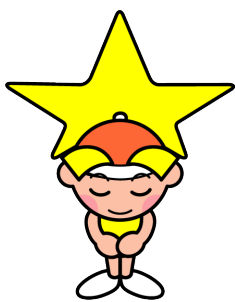
でー」何気ない方言が言葉の一語一語を彩る。強面の警察官でも讃岐弁を聞いてみると、何となしにホツとするのは私が香川に近い岡山出身だからか。方言は郷土の目に見えない文化財だ。方言を使って成長し、方言を使って愛を知る。方言一言でさりげない自分の気持ちを表現することが出来る。人々はことばを手段として使うことに夢中で、ことば一語一語の持つ美しさを忘れかけてはいないだろうか。もちろん人の中にも美しい人や醜い人がいるように、方言の数々のことばにもそれが言える。しかし方言を方言として見、共通語や流行語、あるいは標準語の位置づけを担うためにも方言を忘れることはできない。東京の大学で日々頑張っている岡山県人寮の学生たち。私もついこの前まで「そちら側」の人間だったが、今は「こちら側」の人間になってしまった。彼らが岡山に帰ってきたときには「ゆうにせられーよー」（ゆっくりしなさいよ）と声をかけ、方言で故郷を感じさせてあげたい。

中村源太（平成21年度卒業）

## 精義塾の先輩から

この塾に入り私が得たこと・学んだことは、多様性、先輩からの愛情、そして信頼関係の難しさである。「飯食いに行くとぞー」「音楽しようー」「風呂はいろーやー」そんな様々な誘いから始まり、最後はいつも本気のトーク。「俺はこう思うんよ」「オメーの悪いところはそこじゃ」「オメーのそんなところが好きで」こんなに遠慮なく主張してくる人達はいなかった。当初は動揺したけれど、本気の思いをぶつける先輩達は私に本気で向き合ってくれている感じがしてとても嬉しかった。これらのことは今後社会に出ても大切なことであろうし、忘れないようにしたい。またこれらのことを先輩達にどんどん伝えていきたいと思っている。この塾で過ごせたことを幸運に感じている。

樋本浩平（平成24年度卒業）





## 備中館の先輩から

備中館を離れて半年弱が経過した。備中館を離れてからの率直な感想は「寂しい」。非常に「寂しい」。特に、備中館を去った最初の夜は特に寂しかった。約3日間は本当に寂しかった。それ以降は新生活立ち上げなどそれどころではなくなった。しかし、新生活も落ち着き今はまた「寂しい」。

私は紆余曲折あり備中館には6年間お世話になった。その分備中館への思い入れも強い方だと思う。備中館があったからこそ岡山から上京してきた私は東京に順応できたし、大学時代にやりたいことを存分にでき、あらゆる挑戦ができた。

私は現在、会社の寮に住んでいる。確かに備中館より新しいし、綺麗だ。部屋も広い。なんとと言っても各部屋にエアコンがあり使い放題。しかし、備中館が今住んでいる寮に比べ圧倒的に優っているものがある。それは「備中ファミリ」という一体感である。コミュニケーション、助け合い、そして時には邪魔し合い（私は主にこれが担当であったことから後輩には迷惑をかけたと思う。この場を借りて謝罪します。）この「備中ファミ

リ」は今後の私の人生で大きな意味を持つことを確信している。また、大切にしたいものの一つだ。

備中館は今後、建て替えなど多くの課題や解決すべき問題がある。それでもそれらを解決し、存続し続けて欲しい。なぜならば、私を含め多くの備中ファミリが備中館に感謝しているからだ。他の3寮も備中ファミリ同様各「ファミリ」があると思う。4寮ともに今後さらに発展することを願いたい。最後に、備中館を離れとりあえず寂しい。

小野和貴（平成24年度卒館）



マスコット「うらっちゃん」(ももっちゃん)

## 事務局からのお知らせ

### ■新規会員の募集

岡山県青年会の通常会員は、岡山県出身の学生です。男女は問いません。育英会東京寮、鶴山館、精義塾、備中館に入寮している学生以外の方も、岡山県青年会に入会いただけますので、学校や知人等で入会を希望される学生がおられましたら、事務局までご連絡ください。入会金は不要で、学生の方（通常会員）の年会費は無料です。

### ■特別会員の方へ維持会費（年会費）納入のお願い

学生寮を巣立っていかれた先輩方や、岡山県出身の学生を応援くださっている方に、特別会員になっていただき、岡山県青年会の運営のご支援をいただいています。特別会員の皆様には、青年会の維持会費（年会費）として一口5千円（できれば2口以上お願いいたします）のご支援を今年もよろしくお願いいたします。

### 事務局連絡先

〒102-0093  
東京都千代田区平河町2-6-3  
都道府県会館10階  
岡山県東京事務所内  
岡山県青年会事務局  
TEL:03-5212-9080  
FAX:03-5212-9083  
メール:seinenkai@pref.okayama.jp

## 学生寮の連絡先

岡山県育英会東京寮

〒108-0074  
東京都港区高輪3-14-21  
TEL:03-3441-3195  
<http://www.okayama-ikueikai.jimusho.jp/ryo01.htm>

精義塾

〒112-0006  
東京都文京区小日向1-21-13  
TEL:03-3947-6565  
<http://www.seigijuku.org/>

鶴山館

〒202-0013  
東京都西東京市中町5-10-8  
TEL:0424-22-5951  
<http://park19.wakwak.com/~kakuzan/>

備中館

〒112-0001  
東京都文京区白山4-8-4  
TEL:03-3947-1549  
<http://備中館.jp/>